

わが街熊谷遺跡めぐり

遺跡出土ビン展

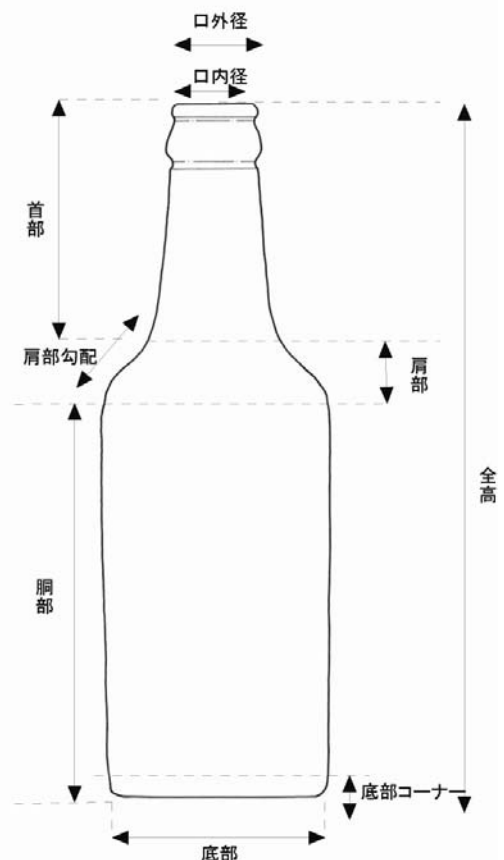
1 はじめに

今回の展示では、発掘現場から出土した明治時代から昭和時代にかけてのガラスビンを取り上げて展示しました。出土したビンは、薬品・化粧品、文具類、アルコール・ジュース類、牛乳ビンなど多岐にわたっています。今回の展示から、身の回りの「ささいなもの」からでも、歴史を知ることができる楽しさを感じていただければ幸いです。

2 ガラスの発明と伝来

ガラスは、約 5000 年前、古代メソポタミアやエジプトで初めて作られたと考えられています。日本では弥生・古墳時代にガラス玉が大陸からもたらされていますが、遺跡からガラス玉の鋳型が出土していることから、国内でもガラス生産または輸入ガラス材の鋳直しが行われているようです。奈良時代には正倉院宝物で有名な「白瑠璃椀」などがシルクロードを通して中国からもたらされています。平安時代以降、ガラスの生産は一時絶えてしまいますが、室町時代末から南蛮貿易によってガラスがもたらされるようになり(ギヤマン・ビードロ)、江戸時代には長崎・大阪・江戸でガラスが生産され、富裕な人々がビンや皿、かんざし、風鈴などを使うようになります。明治時代になると文明開化の象徴としてガラスビンがワイン・ビールなどとともに輸入・販売され、洋風建築を通してガラス窓が広がり、ようやく一般の人々にもガラスが広まります。現在ではガラスは建材やビンだけでなく、グラスファイバーなど様々な用途に使われています。

瓶の各部位名称



盛岡の地中から発見されたガラス瓶：2011 より

3 出土したガラスビン

市内の遺跡（元境内遺跡・籠原裏遺跡・在家遺跡・諏訪木遺跡）から出土した主なビン製品を紹介します。

薬品・化粧品類

1は、「深谷 石丸病院」とエンボスされた薬ビンです。石丸病院は、明治時代に大里郡玉井村（当時）で開業し、現在に至っています。

2は、「ホーカー液」の化粧水ビンです。ホーカー液は、明治42年（1909）創業の東京神田に所在した堀越嘉太郎商店が、大正時代に販売した高等美顔料白味剤（日焼け対策美白コスメ）です。キャッチコピーは、「日傘ひとつで日焦げは防げません」でした。堀越嘉太郎は、販売促進の天才と言われ、新聞や雑誌を利用した広告戦略や、懸賞・観劇・遊覧ツアーなどのキャンペーンを多用する販売戦略により業績を伸ばしました。この「ホーカー液」の名前の由来は、堀越の「ホ」と、嘉太郎の「カ」を併せて「ホーカー液」と商品名を変えたとのことです。

3は、「レートクリーム」ビンです。「レートクリーム」は、株式会社平尾賛平商店が発売した化粧品です。本社は、東京の日本橋に所在し、明治11年（1878）に平尾賛平氏が開業、昭和29年（1954）に廃業となっています。戦前は、「西のクラブ」（神戸：中山太陽堂）、「東のレート」（日本橋：平尾賛平商店）といわれたほど、有名な化粧品メーカーでした。このレート（Lait）は、フランス語で「乳」を意味しており、フランス語を化粧品名に採用した日本最初の企業です。

4は、「ビオフェルミン」薬ビンです。ビオフェルミン製薬は、兵庫県神戸市に本社を置く大正6年（1917）創業の製薬メーカーで、昭和24年（1949）に現在の社名に変更されています。創業当初から一貫して、乳酸菌整腸薬「ビオフェルミン」を中心に製造している会社です。この瓶は、ビオフェルミン製薬株式会社に社名変更したのが1949年であることから、1949年以前に作られたものと推測されます。

			
1.石丸病院薬ビン	2.ホーカー液ビン	3.レートクリームビン	4.ビオフェルミン薬ビン

文具類

1は、底部に「RIGHT」とエンボスされているインクビンです。この「RIGHT」は、篠崎インキ製造株式会社の商品です。篠崎インキ製造株式会社は、明治時代に篠崎又兵衛が創業し、昭和22年頃倒産しています。その商標権を株式会社ライトが買い取り、戦前から著名ブランドだった「ライトインキ」の製造・販売を開始しました。

2は、パイロット社製インクビンです。

3は、篠崎インキ製造株式会社のインクビンです。底面に、「SIMCO」のロゴ（Shinozaki Ink Manufacturing Company）がエンボスされています。

		
1.篠崎インキのインクビン	2.パイロットのインクビン	3.篠崎インキのインクビン

アルコール・ジュース類

1は、大日本麦酒のビール瓶です。大日本麦酒株式会社は、明治39年(1906)に、大阪麦酒(アサヒビールの前身)、日本麦酒(恵比寿ビールを製造)、札幌麦酒(サッポロビールの前身)が合併して誕生しました。一時は、市場占有率約7割を占めていましたが、昭和24年(1949)、過度経済力集中排除法の適用を受け、朝日麦酒(現アサヒグループホールディングス)と日本麦酒(現サッポロホールディングス)に分割されました。

2は、カルピスビンです。「カルピス」は、酸乳をベースにした日本初の乳酸菌飲料で、大正8年(1919)ラクター株式会社から発売されました。大正12年(1923)カルピス製造株式会社に商号変更され、パナマ帽を被った男性のロゴマークが採用されました。社名は、「カルシウム」とサンスクリットの「サルピス」(熟酥(じゅくそ):五味の一つ:牛乳を精製する過程における五段階の味、(乳味・酪味・生酥味・熟酥味・醍醐味)を合わせたものです。

3は、「TSD Soft Drink」とラベルされたジュースビンです。TSDとは、利根ソフトドリンクのイニシャルで、1973年11月に利根コカ・コーラボトリングの子会社として、千葉市中央区に設立されました。

4は、明治製菓のフルーツシロップ瓶です。「明治製菓会社」(現在の明治製菓株式会社)は、前身となる東京菓子株式会社が、大正5年(1916)設立され、

大正 13 年（1924）に改称して誕生し、昭和 26 年（1951）まで生産されました。明治製菓では、昭和 21 年（1946）年に、このシロップ瓶を洗浄してペニシリンを培養、生産していました。明治製菓ではペニシリン 1t を培養するために、シロップ瓶を 1 日 7,000 本洗浄したとの記録が残っています

			
1.大日本麦酒ビールビン	2.カルピスビン	3.TSDビン	4.明治製菓シロップビン

牛乳ビン

1 は、「鯨井牛乳」ビンです。鯨井牛乳は、くじらい乳業(株)が製造しているもので、創業明治 8 年の市内万吉に所在する老舗店です。

2 は、「大沢牛乳」ビンです。大沢牛乳株式会社は、埼玉県鴻巣市に所在する飲料メーカーで、この瓶には牛乳またはコーヒー牛乳が入れていました。

3 は、「埼玉牛乳」ビンです。埼玉牛乳は、埼玉県熊谷市広瀬に所在する、飲料メーカーです。

		
1.鯨井牛乳ビン	2.大沢牛乳ビン	3.埼玉牛乳ビン

平成 26 年 1 月 10 日発行

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）

—わが街熊谷遺跡めぐり— 遺跡出土ビン展 テーマ展解説書第 16 集